

自動カメラが教えてくれた夢洲の自然

文・写真 磯上 慶子、栗谷 至(夢洲生きもの調査グループ)

今回は調査で導入した自動カメラについて報告したい。夢洲は立入り制限が厳しい場所だ。しかしコアジサシは何時営巣を始めるかわからず、営巣が確認されればすぐさま行政へその区域の保護を連絡する必要がある。そこで私たちが入島できない間、コアジサシの動向確認のため、許可を得て2021年、2022年と自動カメラを設置した。期間は繁殖期である4月末から8月末。場所は前年度の繁殖場所および繁殖適地。その結果、幾つかの疑問が解消しただけでなく多くを知ることができた。

例えば、集団営巣中の場所から突然コアジサシが消え、その後同じ場所での営巣が行われなかったことがあったが、原因は不明だった。カメラ設置後、突然の豪雨で営巣地が水没したことが映像から判明した(写真-1)。調査時に地面は乾いていたため、映像が無ければ水没したとは判らなかっただろう。天敵である猫やカラスの侵入、営巣地を横切るヌートリアも見られ、営巣に多くの危険が伴うことも判った。

映像だけでなく音声も貴重な夢洲の自然を伝えてくれた。夜もにぎやかなコアジサシの集団営巣地。シギやチドリ、カモの声が存在を知らせた。わずかに残るヨシ原から昼も夜も絶え間なく聞こえたオオヨシキリの囀りは、なわばりの確保に必死な様子を思わせた。深夜、カエルの合唱が星空の下に響きわたる。夢洲には、命の音が溢れていた。

設置したカメラは最大4台。2台はいわゆるトレイルカメラ。その一台はコアジサシ基金の寄付によって購入、もう一台も半額を寄付から補助することができた。あと2台はメンバー所持のタイムラプスカメラだ。

主力のトレイルカメラは、スマホの電波で通信し、コマンド送信や写真の取得を行う。設置は単管杭を加工した架台を地中に打ち

込み、屋根を付けて地上約1.5m余から撮影した。タイムラプスカメラは、木杭に小型カメラ三脚をくくりつけてカメラを固定、地表近くから撮影した。

今年10月以降、激しさを増す工事のため立入り調査は不許可となった。せめて自動カメラの設置だけでもとお願いしているが、いまだ許可は出ていない。

「湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること」という市長意見が今後どのように達成されるのを見届け、夢洲の環境保全を内外へ示すことは、万博にとっても益となる。人が立ち入れないときにこそ、自動カメラの出番を期待したい。

最後になりましたが、コアジサシ基金へ寄付してくださった皆様へ、この場を借りて御礼申し上げます。



写真-1 豪雨に水没したコアジサシ営巣地



写真-2 営巣地に侵入し、モビングを受ける猫